



水戸芸術館 令和7年度事業計画

公益財団法人 水戸市芸術振興財団

目 次

水戸市芸術振興財団事業計画	1
音楽部門事業	3
演劇部門事業	22
美術部門事業	38
地域共催事業	54
中心市街地活性化事業	62
吉田秀和賞	64

令和7年度公益財団法人水戸市芸術振興財団事業計画

令和7年度水戸市芸術振興財団は、水戸芸術館において、これまでの実績を踏まえ、「新しい芸術文化を創造する」「国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う」「楽しみながら考える」「市民の芸術文化活動の拠点となる」「都市の活性化に寄与する」を運営の基本理念に、芸術文化の創造と振興を図り、市民文化の向上のため、音楽・演劇・美術の各分野で多彩で魅力あふれる事業を実施してまいります。また、当館と水戸市民会館そして京成百貨店の連携によって、3つの施設から成る「MitoriO(ミトリオ)」地区の振興と中心市街地の活性化にも寄与してまいります。

公益目的事業として、音楽部門では、国内外で活躍する演奏家で構成する専属楽団の水戸室内管弦楽団や新ダヴィッド同盟、カルテット AT 水戸の演奏会をはじめ、現代ピアノの巨匠など注目すべき演奏家を招いての企画、地元演奏家によるコンサートなどを開催いたします。また、「水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会」「市民のためのオルガン講座」などの多様な教育普及事業を通して音楽の魅力に触れる機会を創ってまいります。

演劇部門では、プロデュース公演や気鋭の演出家による公演、著名な俳優が出演する公演、地元アーティストを紹介する「未来サポートプロジェクト」、狂言や落語の伝統芸能などの舞台芸術作品を広く紹介します。教育普及事業では、「子どもミュージカルスクール」や劇団 ACM「小学生のための演劇鑑賞会」を行うほか、各種ワークショップなどにより演劇に興味を深める機会を提供いたします。また水戸映画祭では水戸出身の深作欣二監督の作品を紹介し、映画への関心も広げてまいります。

美術部門では、色彩豊かな躍動感あふれる画風の近藤亜樹の個展、他者との協働や地域における芸術実践などで水戸芸術館との関わりも深い日比野克彦の多岐にわたる活動を紹介する個展、当館設計者で創造的で先駆的な20世紀を代表する建築家・磯崎新の回顧展、立体や映像等を自由に組み合わせた作品の飯川雄大の個展を開催いたします。教育普及事業では、「アーティストワークショップ」「小中学生のための学校訪問アートプログラム」など現代美術に触れる多くの企画を実施いたします。

また、中心市街地活性化事業として、「ウィーン少年合唱団」演奏会などの水戸市民会館との共催事業等により、新たな賑わいと交流の創出を図ります。

これらの事業に加え、当財団の公益目的事業として芸術評論を対象とした「吉田秀和賞」を運営いたします。

開館35周年を迎える水戸芸術館は、昨年11月に就任した片山杜秀新館長のもと、まちの発展から世界文化の発展まで大きな役割を果たしていくという視野を持って、これまで吉田秀和・小澤征爾両館長が積み重ねた活動の成果を礎に、優れた芸術作品を提供する企画事業や子どもたちが豊かな感性を育む教育普及事業のほか、「水戸市芸術祭」や広場での地域共催事業により市民が主体となった芸術活動を促進してまいります。

社会状況の著しい変化により芸術文化をめぐる環境が一層厳しくなる中、“一まちの中へ、人のここに一 楽しもう、アート・生活・MitoriO を”の運営方針のもと、自主企画を中心とする水戸芸術館ならではの芸術文化の創造と発信により、多くの市民の支持を得ることに努め、公的支援や民間企業等の協力をより強固にし、公益財団法人としての運営の充実強化を図り、中長期的に安定した運営の確立を目指してまいります。

＜水戸芸術館の運営基本理念＞

- ・新しい芸術文化を創造する
- ・国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う
- ・楽しみながら考える
- ・市民の芸術文化活動の拠点となる
- ・都市の活性化に寄与する

—まちの中へ、人のところに—
楽しもう、アート・生活・MitoriO を

間口を広く、
まちの発展から世界文化の発展まで、
大きな役割を果たしていく

＜水戸芸術館の取組み＞

音楽、演劇、美術の3部門がそれぞれに、3つの事業を柱に取り組んでいます。

1 多彩で魅力あふれる企画事業

音楽、演劇、美術の各部門が、コンサートホール、劇場、現代美術ギャラリーの各専用空間を最大限に活用し、国内外で活躍するアーティストによる多彩で質の高い企画事業を制作・展開しています。

2 創作体験・学びの場としての教育普及事業

観客、聴衆として来館するだけでなく、創作活動に参加したいという人の意欲に応える事業や、芸術を学びたいという意欲を喚起するための手立てを、工夫をこらし実施しています。

3 地域との共催事業

地域の芸術家が出演・出品する事業や、地域を舞台にした公演・展覧会などを、様々な機関・団体等のまちづくりと連携して活動を展開し、都市の活性化に寄与しています。



世界水準の芸術を発信することを目指した吉田秀和・初代館長、そこに親しみやすさを加え第一級の芸術を横に広げていった小澤征爾・第2代館長。水戸芸術館開館から35年間の仕事の成果をしっかりと踏まえながら、片山杜秀新館長のもと新しいシーズンを迎えます。芸術音楽の核心に迫る公演事業の一層の充実を図るとともに、幼児から高齢者まで様々な年齢層に対応した教育普及事業にも力を入れてまいります。

1. 世界へ発信する専属楽団企画

「水戸室内管弦楽団（MCO）」「カルテット AT 水戸」「新ダヴィッド同盟」による演奏会

2. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画

3. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画や定例企画

4. 茨城の演奏家が出演する企画 ～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～

5. 教育普及事業 ～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～

1. 世界へ発信する専属楽団企画

水戸芸術館は「水戸室内管弦楽団」、「カルテット AT 水戸」、「新ダヴィッド同盟」という3つの専属楽団を持つ、世界的に見てもユニークなコンサートホールです。わが国のクラシック音楽活動の精華を、水戸から世界に発信します。

【水戸室内管弦楽団】（Mito Chamber Orchestra 以下 MCO）とは

1990 年、水戸芸術館の専属楽団として、初代館長・吉田秀和の提唱により誕生しました。世界的に活躍した指揮者の小澤征爾が、2013 年水戸芸術館の館長に就任すると同時に MCO の総監督となり、存命中の 2024 年 2 月までその任にありました。メンバーは、ソリストとして、またオーケストラの首席奏者として世界的な活躍を続ける精鋭たち。指揮者を迎える演奏会とともに、指揮者を置かないアンサンブルによる演奏会にも力を入れています。

東京や大阪など水戸以外での館外公演も積極的に行っています。1998 年、2001 年、2008 年にはヨーロッパ公演を行い、世界有数の室内管弦楽団との評価を確立しました。

教育普及事業にも継続して取り組んでいます。水戸市の全小学 5 年生を対象にした「子どものための音楽会」をはじめ、演奏家たちが地域の子どもたちや音楽家に直接教える「MCO メンバーによる器楽セミナー」など多彩な教育プログラムを実施しています。



水戸室内管弦楽団 第 114 回定期演奏会より ©Michiharu Okubo

5月16日（金）、17日（土）

水戸室内管弦楽団・別府アルゲリッチ音楽祭共同制作

水戸室内管弦楽団 第115回定期演奏会

【現代ピアノの巨匠たち・オーケストラ編】

～世界を魅了し続けているマルタ・アルゲリッチが、創立 35 年を迎える MCO と魅せる演奏会！～



広上淳一
©Masaaki Tomitori

マルタ・アルゲリッチ
©Rikimaru Hotta

半世紀以上にわたって世界を魅了し続けているマルタ・アルゲリッチが、今年も MCO に帰ってきます。指揮を務めるのは、もはや円熟の域に達した指揮者の広上淳一。「室内管弦楽団」の枠組みを超え、古典派・ロマン派の名作にいとむステージをお届けします。

指揮：広上淳一 ピアノ独奏：マルタ・アルゲリッチ

曲目：

シューマン：交響曲 第2番 ハ長調 作品61

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19

※ピアニストの希望により、当初予定の「バルトーク：ピアノ協奏曲第3番」から変更

【東京公演】

別府アルゲリッチ音楽祭・水戸室内管弦楽団共同制作

日本生命 presents ピノキオ支援コンサート

室内オーケストラ・コンサート

5月14日（水） 会場：東京オペラシティ コンサートホール

主催：公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団

※出演者とプログラムは第115回定期演奏会と同じ

11月1日（土）、2日（日）
水戸室内管弦楽団 第116回定期演奏会
【現代ピアノの巨匠たち・オーケストラ編】

～ウィーンの伝統的なピアノリズムの継承者ルドルフ・ブッフビンダーがMCOと魅せる古典派中心のプログラム！～



ルドルフ・ブッフビンダー ©Marco Borggreve

ベートーヴェン弾きとしても名高いピアニストのルドルフ・ブッフビンダーを迎え、モーツァルト〈ピアノ協奏曲第20番〉やベートーヴェン〈ピアノ協奏曲第4番〉を軸にしたMCOの伝統的な面を味わえるプログラムをお届けします。

ピアノ独奏：ルドルフ・ブッフビンダー

曲目：

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58 ほか



水戸室内管弦楽団

名誉総監督

吉田秀和

小澤征爾

名誉顧問

小口達夫

楽団長

堀 伝

楽団員代表

猶井正幸

名誉楽団員

工藤重典（フルート）

水野信行（ホルン）

宮本文昭（オーボエ）

メモリアルメンバー

潮田益子（ヴァイオリン）

江戸純子（ヴィオラ）

ローランド・アルトマン

（ティンパニ）

ヴァイオリン

安芸晶子＊

小栗まち絵

川崎洋介

佐份利恭子

島田真千子

竹澤恭子

田中直子＊

豊嶋泰嗣＊

中村静香

ヴィオラ

川崎雅夫

川本嘉子

店村眞積＊

チェロ

上村 昇

原田禎夫＊

宮田 大

コントラバス

池松 宏

フルート

セバスチャン・ジャコー

オーボエ

フィリップ・トーンデュル＊

クラリネット

リカルド・モラレス

ファゴット

ダーグ・イェンセン

ホルン

猶井正幸＊

ラデク・バボラーク

ステージマネージャー

佐藤昌樹

＊運営委員

協賛：（株）アダストリア、NEC、水戸証券（株）、（公財）げんでんふれあい茨城財団、

（株）吉田石油、水戸京成ホテル

協力：全日本空輸（株）

後援：（株）茨城新聞社、水戸商工会議所

【カルテット ^{アット} AT 水戸】

2023 年、当館の専属楽団として、水戸室内管弦楽団ならびにオタワ・ナショナル・アーツセンター管弦楽団のコンサートマスターを務める川崎洋介を中心とする、室内楽の名手4名で活動開始。弦楽四重奏の名曲をお届けするのはもちろん、まだ知られていない優れた作品の紹介にも力を入れています。また、地域の子どもたちや福祉施設を対象にした教育活動・アウトリーチ活動も継続的に行っていきます。

7月19日（土）

カルテット ^{アット} AT 水戸 第3回演奏会

～ハイドンやベートーヴェンの名作をとりそろえたプログラム～



左から 西野ゆか（ヴァイオリン）、柳瀬省太（ヴィオラ）、辻本 玲（チェロ）、川崎洋介（ヴァイオリン）

©田澤 純

緻密なアンサブルに裏打ちされた表現力豊かな演奏はもちろんのこと、メンバーによる親しみやすいトークもたいへん好評をいただいている水戸芸術館専属楽団の「カルテット AT 水戸」。今年は弦楽四重奏曲の王道とも呼べるハイドンやベートーヴェンの傑作を取りそろえ、第3回演奏会に臨みます。

出演：カルテット AT 水戸

川崎洋介（ヴァイオリン）、西野ゆか（ヴァイオリン）、
柳瀬省太（ヴィオラ）、辻本 玲（チェロ）

曲目：

ハイドン：弦楽四重奏曲 第38番 変ホ長調 作品33の2 〈冗談〉

アウエルバハ：弦楽四重奏曲 第3番 〈セテラ・デサント〉

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第7番 ヘ長調 作品59の1 〈ラズモフスキー 第1番〉

【新ダヴィッド同盟】 New “Davidsbündler”

2010 年、吉田秀和初代館長の命名により当館の専属楽団として結成されました。メンバーは、日本を代表するヴァイオリニストの一人、庄司紗矢香を中心に、庄司の呼びかけで集まった気心知れた音楽仲間たち。みな世界各地から水戸に集まり、密度の濃いリハーサルを徹底的に行って演奏会に臨みます。

9月18日（木）

新ダヴィッド同盟 第8回演奏会

～ “新生” 新ダヴィッド同盟が活動開始！～



庄司紗矢香（ヴァイオリン）
©Laura Stevens



磯村和英（ヴィオラ）
©Marco Borggreve



北村 陽（チェロ）



小菅 優（ピアノ）
©Marco Borggreve

2025 年、“新生” 新ダヴィッド同盟が始動します。国際的なコンクールや賞を総なめにして
いるチェロ界の“新星” 北村陽が新たにメンバーに加わります。ご期待ください。

出演：新ダヴィット同盟

庄司紗矢香（ヴァイオリン）、磯村和英（ヴィオラ）、
北村 陽（チェロ）、小菅 優（ピアノ）

曲目：

モーツァルト：ディヴェルティメント 変ホ長調 K.563

ブラームス：ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25

【館外公演】

9月20日（土） 札幌・ふきのとうホール

9月23日（火・祝） 香川県直島町・直島ホール

2. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画

国際舞台の最前線で活躍する当代を代表する名演奏家たちを水戸に招聘します。プログラムは、地域の皆様のご要望やその演奏家の魅力が最大限に伝わるような曲目などをリクエストし、水戸芸術館ならではのコンサート内容をご提供します。

6月11日（水）

ウィーン少年合唱団 中心市街地活性化事業

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

～世界中から愛される“天使の歌声”が水戸に舞い降ります～



©www.lukasdeck

共催：水戸市民会館

神聖ローマ帝国の時代に創立され、500年以上の歴史を誇るウィーン少年合唱団は、“天使の歌声”として世界中で愛されています。より多くの方々にお楽しみいただけるよう、中心市街地活性化事業として水戸市民会館で公演を行います。

曲目：J.シュトラウスⅡ：美しく青きドナウ

岡野貞一：ふるさと ほか

10月25日（土）

内田光子（ピアノ）【現代ピアノの巨匠たち・リサイタル編】

～日本が誇る稀代のピアニスト～



内田光子 Decca/© Justin

自らが奏でる音楽の世界を深く掘り下げている現代最高峰のピアニストの一人。世界中のホールが内田光子の招聘を望んでいますが、彼女は公演の回数や会場を非常に限定しているために、その実現は困難です。しかし、水戸芸術館では継続的にリサイタルを行ってくれています。今回は、ベートーヴェン後期三大ソナタの美しい精神世界の核心と本質へと迫ります。

曲目：

オール・ベートーヴェン・プログラム

ピアノ・ソナタ第30番 ホ長調 作品109

ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品110

ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 作品111

12月14日(日)

クリスチャン・ツィメルマン(ピアノ)【現代ピアノの巨匠たち・リサイタル編】
～「今、世界で望み得る最高のピアニスト」の現在～



クリスチャン・ツィメルマン ©Bartek Barczyk

ピアノという楽器を熟知した、緻密で完璧な演奏により、現代最高峰のピアニストと評価されるクリスチャン・ツィメルマン。彼は、小澤征爾前館長とは深い友情で結ばれ、水戸芸術館でのリサイタルは「セイジゆかりのホールでの特別なもの」として大切に想ってくれています。

3月7日(土)

庄司紗矢香(ヴァイオリン)&ジャンルカ・カシオーリ(ピアノ)
～進化をやめないヴァイオリニスト庄司紗矢香が切り開く新たな地平～



左からジャンルカ・カシオーリ(ピアノ)、庄司紗矢香(ヴァイオリン)

新ダヴィッド同盟の中心メンバーであり、パリを拠点にクラシック音楽の本場ヨーロッパで活躍し続けている庄司紗矢香。長年の盟友であるピアニスト、カシオーリとのデュオを水戸では13年ぶりに披露します。

曲目：

ドラピッコラ：タルティニアーナ 第2番

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第1番

ト長調 作品78〈雨の歌〉 ほか

日程調整中

大西順子(ジャズ・ピアノ)

～唯一無二にして至高のジャズピアニスト



日本のジャズシーンを長年第一線でリードしているジャズピアニスト・大西順子。2022年のカルテット、2024年のセクステット、さらには2025年のソロ公演と、度重なる大反響をいただいております。詳細は現在調整中。

3. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画や定例企画

音楽部門学芸員が社会的意義や地域の皆様のニーズをふまえながら独自の視点で企画・制作するオリジナル企画や、ご好評につき毎年行っている定例企画です。

9月27日（土）

鈴木優人（チェンバロ）「J.S.バッハをとりまく音楽のシリーズ」

第2回「捧げもの」からモーツァルトへの系譜

～鈴木優人が自らの原点＝バッハに立ち返る大人気シリーズ企画～



鈴木優人 ©Marco Borggreve

出演：鈴木優人（チェンバロ）

鶴田洋子（フラウト・トラヴェルソ）

寺神戸 亮（ヴァイオリン）

山本 徹（チェロ）

ピアノ、チェンバロ、オルガンなど様々な鍵盤楽器を自在に操り、最近では「題名のない音楽会」などテレビ出演でも人気の高い鈴木優人が、昨年からはバッハをテーマとしたシリーズ企画を開始。第2回はバッハからモーツァルトへの系譜を辿ります。

曲目

ハイドン：チェンバロ・ソナタ ト長調

C.P.E.バッハ：フルート・ソナタ イ短調

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ

第18番 ト長調 K.301 (293a)

J.S.バッハ：音楽の捧げもの BWV1079

12月7日（日）

水戸の街に響け！ 300人の《第九》2025

会場：広場（雨天の場合、コンサートホール ATM）

～師走の空に、市民による大合唱が響く～



【関連企画】

300人の《第九》合唱団が、茨城交響楽団の「第九」コンサートに出演します。

11月23日（日）茨城交響楽団「第九」コンサート（会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館）

主催：茨城県、茨城交響楽団、茨城県合唱連盟 ほか

一般公募の市民など約300名の大合唱団が、9月から練習を重ね、シンボルタワーの下、水戸の街に壮大な歌声を響かせるという、全国的に見ても類例のない企画です。今年で22回目を迎えます。

12月20日(土)

クリスマス・プレゼント・コンサート 2025

～毎年恒例！ クリスマスの夜を彩るガラ・コンサート～



さまざまな楽器・編成から、実力ある人気演奏家たちが集い、クリスマスの気分を盛り上げるガラ・コンサート。今年も、日本を代表する作曲家であり、水戸出身の池辺晋一郎の企画・司会でお贈りします。恒例のクリスマス・プレゼント・コーナーも予定しています。

企画・司会：池辺晋一郎

3月14日(土)

伝統芸能のスズメ [聲明]

四箇法要 附 宮内康乃作曲〈海霧讃歎〉〈海霧廻向〉

～東日本大震災 15 年の祈りの音楽～



©安養院

仏教の経文に旋律を付けた「^{しょうみょう}聲明」(声明)は奈良時代にわが国に伝わった伝統音楽で、日本の伝統芸能のルーツの一つとも言われています。天台宗と真言宗の僧侶たちが^{し か ほうよう}聲明の古典的な四箇法要を唱え、その中心部と終局では東日本大震災で命を落とした女性が生前に詠んだ^{うみぎりさんだん}短歌とその息子による返歌を用いた^{うみぎりえこう}〈海霧讃歎〉〈海霧廻向〉を上演します。

出演：声明の会・千年の聲

3月22日(日)

小菅 優 (ピアノ)「ソナタ・プロジェクト」 Vol.4

～人気と実力を兼ね備えたピアニスト

小菅優が挑むシリーズ企画の最終回～



小菅優 © Marco Borggreve

新ダヴィッド同盟のメンバーであり、我が国を代表するピアニストの一人でもある小菅優がお届けしているシリーズ企画。最終回となる Vol.4 は「晩年を迎えて」をテーマに、老境に達した大作曲家たちの名作を取り上げます。

曲目：モーツァルト：ピアノ・ソナタ

第 18 番 二長調 K.576

シューベルト：ピアノ・ソナタ 第 21 番

変ロ長調 D960 ほか

ちょっとお昼にクラシック シリーズ

～昼下がりに約 1 時間、気軽にクラシック音楽をお楽しみいただける人気シリーズ～

11 月 29 日（土）

室住素子（オルガン）

～水戸芸術館のオルガンを誕生時から見守るオルガニスト～



室住素子 ©田澤 純

オーケストラにも匹敵する多彩な音色をもち荘厳な音響世界を創り上げるパイプオルガンの魅力を凝縮してお楽しみいただきます。小澤征爾前館長にも認められ、2010 年のサイトウ・キネン・オーケストラのカーネギー・ホール公演にも参加している室住素子が出演します。

1 月 24 日（土）

加藤訓子（パーカッション）

～国際的な評価を集めるパーカッショニスト・加藤訓子の現在～



加藤訓子 ©Michiyuki Ohba

国際的な活動を続け、水戸室内管弦楽団第 2 回ヨーロッパ公演（2001 年）にも参加しているパーカッショニスト・加藤訓子が登場します。J.S.バッハ作品やアルメニアン・ソング、ライヒ作品など、国内外で高い評価を得ている近年の取り組みが、披露されます。

2 月

辻本玲（チェロ）を中心とした室内楽

～カルテット AT 水戸のメンバーであり、N 響首席でもある実力派～



辻本 玲

水戸市内の中学 1 年生をコンサートホールに招く「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ内容で、ご家族で音楽の楽しさを共有できるコンサートです。今回は実力派チェロ奏者の辻本玲を中心に、室内楽のアンサンブルをお届けする予定です。

4. 茨城の演奏家が出演する企画 ～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～

6月28日（土）

茨城の名手・名歌手たち 第33回出演者オーディション

～茨城から羽ばたく才能を発掘～

茨城県にゆかりのある優れた演奏家を発掘・紹介する演奏会のオーディション。1990年の開館から継続して行っているこの企画からは、全国的に活躍する演奏家も数多く輩出しており、演奏家の登竜門としても注目されています。

審査部門：鍵盤楽器、弦楽器、邦楽器（以上ソロ）、邦楽アンサンブル（2～5名まで）

11月9日（日）

茨城の名手・名歌手たち 第33回演奏会

司会：宮本文昭

～茨城から羽ばたく才能を広く紹介～



6月のオーディションに合格した演奏家たちが出演するガラ・コンサート。司会はMCO元オーボエ奏者の宮本文昭（オーディション審査委員）が務めます。

1月17日（土）

第15回 佐川文庫

茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート

～茨城ゆかりの演奏家によるサロン・コンサート～



常陽藝文ホールで開催してきた「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」が、昨年度からその舞台を佐川文庫に移してリニューアルしました。「茨城の名手・名歌手たち」の合格者を広く紹介します。

茨城の演奏家による演奏会企画

茨城県内を拠点に活動する演奏家の方々が、企画・出演する演奏会です。
今年度は、7企画を開催します。



- | | |
|------------------------------|-----------|
| ・ 富永春菜（ソプラノ） | 7月6日（日） |
| ・ Nexus Brass Band（英国式金管バンド） | 11月16日（日） |
| ・ 古橋明香里（ピアノ） | 2月1日（日） |
| ・ Coro La DIVA（女声合唱） | 2月21日（土） |
| ・ 山田裕美（メゾ・ソプラノ） | 2月28日（土） |
| ・ 井上修（ピアノ） | 3月1日（日） |
| ・ アンサンブルくうま（女声合唱） | 3月8日（日） |

広報誌の編集・発行

水戸芸術館音楽紙 vivo（ヴィーヴォ）



演奏会情報や出演者のインタビュー、制作秘話など、学芸員ならではの視点で掲載する広報誌の編集・発行を通年で行っています。

ラジオ番組

水戸芸術館 presents みんなのクラシック

毎週日曜 7:30～8:00 Lucky FM 茨城放送



音楽部門学芸員が様々なテーマでおおすすめの曲を紹介し、クラシック音楽の魅力をお届けします。

5. 教育普及事業

～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～

子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム、子どもたちや市民の音楽活動を支援する教育プログラム、クラシック音楽初心者の方でもお楽しみいただける入門的なプログラムなど、すべての世代に向けて、多彩なプログラムを用意しています。

●水戸室内管弦楽団 教育普及事業

10月31日（金）

水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

会場：リリーアリーナ MITO

～オーケストラの生演奏を約 2,500 人の子どもたちに～



子どもたちにオーケストラの生演奏の感動を届けたいと願い、MCO が水戸市内・近郊の小学 5 年生 2,500 を対象に、トークと楽器紹介を交えて音楽会を行います。19 回目を迎える今回は、第 116 回定期演奏会の開催にあわせて行います。

主催：（公財）水戸市芸術振興財団、水戸市教育委員会

共催：（公財）げんでんふれあい茨城財団

2月14日（土）・15日（日）

水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

会場：坂東市民音楽ホール

～茨城県で活動する演奏団体の演奏を MCO メンバーが指導～



MCO の管楽器奏者たちが、県内の吹奏楽団やオーケストラを指導する公開レッスンです。年ごとに県内の各地域を巡回して開催しており、今年度は県西地域を対象に、坂東市で開催します。

共催：茨城県

1月12日（月・祝）

MCO セミナー・ウインズ 2026

～MCO メンバーとセミナー受講団体の合同コンサート～



共催：茨城県

公募で選ばれた県内の管楽器アンサンブル（高校生～一般。三～八重奏程度）が、MCO の管楽器奏者たちのレッスンを受講し、その成果を披露していただくコンサートです。講師と受講者全員での合奏も予定しています。

1月10日（土）

水戸室内管弦楽団メンバーによる小中学生吹奏楽セミナー

～世界トップレベルの音楽家が地域の子どもたちを直接指導～



共催：水戸市教育委員会

水戸市の小中学校吹奏楽部や金管バンド部を対象にコンサートホール ATM で、MCO メンバーが演奏を指導します。子どもたちの演奏技術の向上、および MCO と地域との交流を目的に実施している教育プログラムです。

●子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム

8月11日（月・祝）

0歳からのオルガン・コンサート にぎやか★オルガン

～親子で楽しくコンサートホールデビューしませんか～



赤ちゃんから参加できる、小型オルガンの音楽会。子どもたちに大人気のオルガニスト・浅井美紀、そして今回はクラシックを中心にミュージカルやCM録音でも活躍している打楽器奏者・上原なな江を迎えて、オルガンと様々な打楽器によるコラボレーションをお贈りします。

通年（月1～2回）

幼児のためのパイプオルガン見学会

～楽器の王様・パイプオルガンを、楽しく体験～



市内の幼稚園、保育所（園）の幼児を対象に、パイプオルガンを気軽に楽しんでもいただく企画。休館日に行っており、年間約1,400名、これまで2万人以上の子どもたちが参加している人気プログラムです。

2月

中学生のための音楽鑑賞会 2026

～市内の中学生約2,000名が一流の演奏を楽しく鑑賞～



MCOのメンバーなどによる演奏とトークを通してクラシック音楽に親しんでもらう音楽鑑賞会。1992年から開催しており、毎年水戸市内の中学1年生約2,000名が参加しています。今年度はチェロ奏者の辻本玲を中心とした室内楽をお届けする予定です。

共催：水戸市教育委員会

●市民の音楽活動を支援する教育プログラム

11 月

中学校 合唱の祭典

～市内中学校の合唱コンクールの成果を披露～

市内の各中学校の合唱コンクールで最優秀に選ばれたクラスや団体が一堂に会し、その成果を披露します。より沢山の子どもたちに、当館のステージで演奏する楽しさを知ってもらいたいとの思いから、開催しています。

共催：水戸市教育委員会

12 月 13 日（土）

市内小中学校 芸術館コンサート 2025

～水戸市内の子どもたちによるステージ～



市内の小・中学校の吹奏楽、器楽合奏、合唱などの各団体による演奏会で、日頃の練習成果を発表する機会です。MCO の管楽器奏者などが演奏会に立ち会い、講評を行います。

9 月～3 月

市民のためのオルガン講座

～国産最大級のパイプオルガンを弾いてみる～



多彩な音色を持つ、国産最大級のパイプオルガンを弾いて楽しむ講座。「実技レッスン（初級・中級）」と「一回体験」、そして2025年より「実技レッスン（上級）」を新設しました。講師は、全国各地で活躍するオルガニストで、元当館音楽部門主任学芸員の室住素子が務めます。

2月

合唱セミナー 2026

～合唱の楽しみを広げよう～



共催：茨城県合唱連盟、茨城県高等学校文化連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部

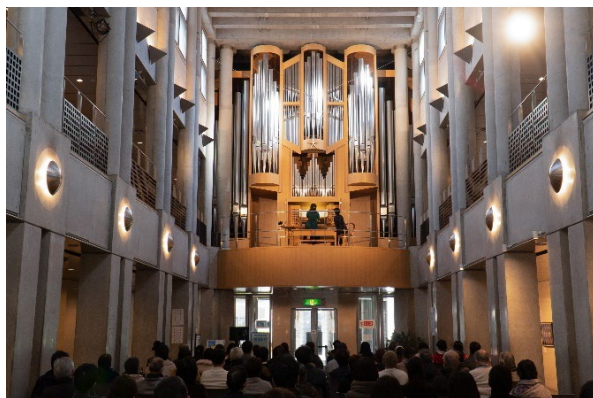
地元の合唱愛好家の方々を対象としたセミナーです。毎回、日本を代表する合唱指揮者や作曲家を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習します。

●その他の教育普及事業

通年（月2回程度）

パイプオルガン・プロムナード・コンサート

～国産最大級のパイプオルガンを無料で楽しめるコンサート～



エントランスホールに設置された国産最大級（パイプ総数 3,283 本）のパイプオルガンの音色を気軽にお楽しみいただける、週末お昼の無料コンサート。

パイプオルガン以外の楽器や声楽を取りあげる「プロムナード・コンサート EXTRA(エクストラ)」も開催します。

8月16日（土）

ぴ～すプロジェクト

平和作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート

～戦争と水戸空襲の記憶を若い世代に～



共催：水戸市

「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝えるため、水戸市平和記念館、水戸市立博物館、水戸芸術館の3館が連携して開催するプロジェクト。当館では平和作文コンクールで優秀な成績を収めた小中学生の朗読発表とパイプオルガンの演奏をお聴きいただけます。



劇場という場所で、地域のみなさんを元気に、
そして豊かにしていきたい！
演劇の持っている“力”を活かして、
“公共”劇場の役割を果たしていきます

1. 劇場の特性を活かしたオリジナル作品づくり「ACM 劇場プロデュース」
2. 誰もが楽しめる、そして伝えていきたい「伝統芸能のススメ」
3. 最先端で良質な演劇作品を紹介する「招聘企画」
4. 水戸の映像・映画文化の発展を目指す「水戸映画祭」
5. 舞台芸術の才能を育てる「人材養成プロジェクト」
6. 楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」（教育普及事業）

1. ACM 劇場プロデュース

水戸芸術館 ACM 劇場は、企画によって客席数を最適化し、臨場感溢れる演劇環境で、地域の皆様に興味を持っていただけるオリジナル作品を上演します。

近年は、特に次世代の子どもたちのための活動に力を入れており、地域の実情とニーズに沿ったオリジナル作品を企画しています。

5月2日（金）～6日（火・振）

ゆうくんとマットさんの『おじいちゃんはロボットはかせ』

～ゴールデンウィークに子どもの観劇デビュー！親子で楽しめる舞台シリーズ～



子どもたちに大人気の読み聞かせユニット「ゆうくんとマットさん」の舞台シリーズ。今年は2021年に初演し好評を得た作品を、パワーアップして再上演します。

2021年初演より ©刑部アツシ

原作：つちやゆみ「おじいちゃんはロボットはかせ」（文溪堂）

脚本・構成・演出：Ukm3

出演：ゆうくんとマットさん（小林祐介・大内真智）、堀口理恵、木村隆之、菊地侑紀、
八頭司悠友、小野口伊織（劇団鏡）、ほしら

ゆうくんとマットさんの「おはなしキャリーボックス」（月1回開催・入場無料）

～ゆうくんとマットさんと一緒に、素敵な絵本の世界を楽しもう～



絵本の読み聞かせを毎月1回、水戸芸術館館内にて開催します。ご家族で楽しく過ごせる時間です。

ゆうくんとマットさんとは

東日本大震災をきっかけに、水戸芸術館専属劇団 ACM メンバーの小林祐介と大内真智が結成した絵本の読み聞かせユニット。様々な場所に出張して読み聞かせを行う「おはなしキャリーボックス」のほか、ACM 劇場にて舞台公演を行っています。

7月5日(土)、6日(日)

深作組+水戸芸術館 ACM 劇場 プロデュース公演

『フェードラ ー炎の中でー』

～悲劇のヒロイン“フェードル”を現代にアレンジした作品を、能舞台上で上演！～



昨年好評だった『ノラ』に続いての深作健太の演劇ユニット＜深作組＞との連携事業。ACM 劇場に特設する能舞台上での現代演劇の公演はたいへんな話題を呼びました。ギリシア悲劇のヒロイン“フェードル”を現代に蘇らせた作品を日本初演します。

作：ニノ・ハラティシュヴィリ

翻訳・ドラマツルク：大川珠季

音楽・演奏：西川裕一

演出：深作健太

出演：堀井美香、市川 蒼、白又 敦、佐竹桃華、宮地大介、加藤 頼

7月20日(日)、21日(月・祝)

ゆうくんとマットさんの『かいじんハテナ?』特別公演

～昨年のGW公演で大好評だった『かいじんハテナ?』が夏休みに帰ってくる!～



昨年大好評だった、チェコを拠点に世界で活躍する人形劇師・沢則行さんとのコラボレーション。今年は特別公演として夏休みに開催します。

山口情報芸術センター(YCAM)での館外公演も実施します。

2024年初演より ©刑部アツシ

原作：舟崎克彦『かいじんハテナ?』(小学館)

脚本・構成・演出：Ukm3

人形デザイン・製作・操作指導：沢 則行

出演：ゆうくんとマットさん(小林祐介・大内真智)、堀口理恵

9月20日（土）、21日（日）、23日（火・祝）、27日（土）、28日（日）
プロデュース公演 <新しいシェイクスピア劇の創造事業>
『ロミオとジュリエット』

～翻訳家・小田島創志と演出家・大澤遊による新しい『ロミオとジュリエット』が誕生～



『世界のすべては、ひとつの舞台～シェイクスピアの旅芸人』より ©刑部アツシ

昨年度上演したシェイクスピア作品の劇中劇などの名場面を新翻訳で構成・演出した『世界のすべては、ひとつの舞台～シェイクスピアの旅芸人』に続く創造事業の2作目が登場します。
大活躍中の若き翻訳家・小田島創志による新翻訳と演出家・大澤遊による現代に通じるような新解釈のシェイクスピア劇にご期待下さい。

原作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島創志

演出：大澤 遊

振付・スレーシング：根本紳平

出演：大石英玄（文学座）、伊海実紗、鈴木勝大、高畑こと美

伊藤ナツキ、今井公平、西奥瑠菜、八頭司悠友

塩谷亮、大内真智、小林祐介（以上劇団 ACM）

松田洋治

11月23日（日・祝）、24日（月・振）、29日（土）、30日（日）

ACMファミリーシアター

『大どろぼうホツェンプロッツ』

～子どもだけでなく大人の心にも響く舞台を！

家族で一緒に楽しめる ACM ファミリーシアター・シリーズ～

絵本や児童文学を原作に、家族で楽しめる作品を上演してきた ACM ファミリーシアター・シリーズ。今年も子どもも大人も楽しめる舞台をお届けします！

出演：劇団 ACM 他

※本公演は水戸市立小学校の4年生を ACM 劇場に招待して生の演劇を見ていただく「小学生のための演劇鑑賞会」として、上記日程以外にも公演を行います。（36 ページに掲載）

2月7日（土）、8日（日）

プロデュース公演

水中めがね∞ ダンス公演

～水戸出身のダンサー・振付家 根本紳平が所属するダンスカンパニーが再登場～



Yokohama Dance Collection 2024 photo : Sugawara Kota

振付：根本紳平・中川絢音

出演：水中めがね∞ 他

令和5年度の人材養成「未来サポートプロジェクト Vol.15」で登場した水戸出身のダンサー・振付家である根本紳平が所属するダンスカンパニーと ACM 劇場のプロデュース公演。カンパニーのレパートリー作品である『しき』の上演と、市民とともに創作する新作ダンスを同時上演予定。

2. 伝統芸能のススメ

伝統芸能をたっぷり堪能できる人気企画。定期開催となっている狂言公演の他に、人気のある落語家の独演会など一年間を通して楽しめるプログラムとなっております。

4月5日（土）

伝統芸能のススメ〔落語〕

立川志の輔独演会

～当代随一の人気と実力を誇る立川志の輔～



当代随一の人気と実力を誇る落語家・立川志の輔。
落語に新しい息吹を吹き込み、進化し続けるその話芸で、年齢を問わず多くの観客を魅了しています。
志の輔ワールドを存分にお楽しみいただけます。

4月19日（土）

伝統芸能のススメ〔狂言〕

野村万作抄 31

～人間国宝・野村万作と様々な領域で大活躍する野村萬斎の親子競演～



笑いの伝統芸能、狂言の魅力が詰まった演目をご堪能ください。人間である大名と蚊の精が相撲をとる『蚊相撲』、能『八島』の間狂言の特殊演出として演じられる語り『奈須与市語』、狂言の代表作の一つ『棒縛』をお贈りします。

出演：野村万作、野村萬斎 他

8月9日（土）
伝統芸能のススメ〔講談＋落語〕
松林伯知主任による講談＋落語公演

～水戸市三の丸出身の講談師の特別公演～



©刑部アツシ

出演：松林伯知 他

昨年度の人材養成事業＜未来サポートプロジェクト＞伝統芸能スペシャルで真打昇進＆襲名披露公演が好評だった松林伯知自身が主任となり、講談と落語を楽しめる特別公演を企画します。

9月7日（日）
伝統芸能のススメ〔落語〕
米朝生誕百年 桂米朝一門会

～人間国宝・三代目桂米朝の生誕百年にあたり、一門会を開催！～



出演：桂 米團治、桂南光 他

戦後の上方落語の復興に尽力した人間国宝・三代目 桂米朝。水戸芸術館でも、90年代の「古典落語のタベ」シリーズで独演会を開催しました。

桂南光、桂米團治など、米朝一門の人気落語家による高座に加え、米朝落語を映像でご覧いただける、贅沢な一門会です。

10月5日（日）
伝統芸能のススメ〔狂言〕
萬狂言 水戸公演

～笑いの伝統芸能“狂言”の魅力を存分に堪能～



出演：野村萬、野村万蔵、野村万之丞 他

和泉流狂言の名家、野村万蔵家の狂言師による「萬（よろず）狂言」。

95歳の野村萬、万蔵家を率いる当主万蔵、そして次代を担う万之丞、親子三代にわたる競演を今年もお贈りします。

10月11日（土）
伝統芸能のススメ〔落語〕
桂宮治独演会

～「笑点」大喜利レギュラー出演など大活躍中！話題満載の噺家です～



桂宮治自身により演出されたシアトリカルな落語の独演会。人気テレビ番組「笑点」ではみることのできない桂宮治渾身の落語を劇場ならではの空間でお楽しみいただきます。

1月25日（日）
伝統芸能のススメ〔落語〕
柳家三三^{さんざ}独演会

～ますます磨きがかかった古典落語の名人芸～



端正な語り口で、観客をあっという間に江戸落語の世界に誘う巧みな話芸。古典落語の名手が、今年もACM劇場に登場します。

3月1日（日）
伝統芸能のススメ〔落語〕
柳家花緑独演会

～古典から新作まで、今年もあの歯切れのよい語り口をお楽しみに～



水戸芸術館のラインナップにはなくてはならない
演者の一人となりました。
幅広い嘶で観客を魅了する落語界のプリンスが今
年度もやってきます。

日程調整中ですが、次の企画も上演予定です

伝統芸能のススメ〔落語〕
春風亭昇太独演会

～今年も昇太ワールドをお楽しみください～



登場ただけで会場が明るくなる、今やテレビ「笑
点」の、そして落語界の“顔”ともいうべき春風亭
昇太。今年も抱腹絶倒の昇太ワールドをお楽しみく
ださい。

3. 招聘企画

日本各地の公共劇場やプロダクションが製作する良質でオリジナリティの高い作品を地域の皆さまに紹介する企画シリーズ。今の時代だからこそ見逃せない企画もあれば、誰もがいつでも楽しめるような作品まで幅広く作品を紹介するよう心がけています。
演劇により時代の空気も体感できる粒揃いのラインナップです。

6月14日（土）、15日（日）

追悼・唐十郎 劇団唐組紅テント公演『紙芝居の絵の町で』
＋ 映画「シアトリカル 唐十郎と劇団唐組の記録」上映会

～一周忌を迎えた唐十郎の追悼企画～



劇団唐組〈紅テント〉公演『紙芝居の絵の町で』

作：唐十郎 演出＝久保井研 ＋ 唐十郎

会場：水戸芸術館広場内特設紅テント

映画「シアトリカル 唐十郎と劇団唐組の記録」(2007 年製作)上映会

監督・脚本・構成：大島新

会場：水戸芸術館 ACM 劇場

アンダーグラウンドカルチャーの旗手。詩情あふれる言葉と俳優の肉体が生み出すダイナミズムに満ちた唐十郎の劇世界。

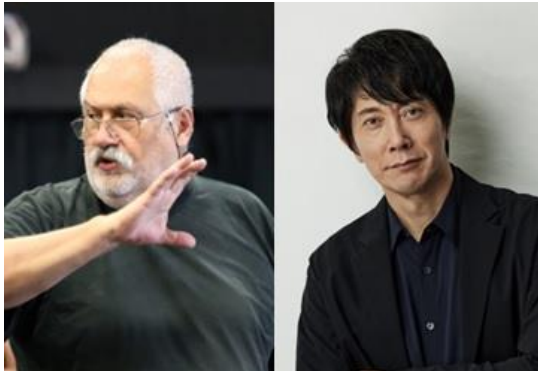
一周忌を迎え、所縁の地・水戸で、劇団唐組紅テント公演と、ドキュメンタリー映画「シアトリカル 唐十郎と劇団唐組の記録」(2007 年製作)を上映します。広場の特設紅テントと ACM 劇場で、1 日で映画と唐組公演の両方楽しめる企画です。

11月1日（土）、2日（日）

東京芸術劇場＋ルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場

『JONAH』

～ルーマニアの鬼才・プルカレーテ×佐々木蔵之介の一人芝居～



作：マリン・ソレクス

演出：シルヴィウ・プルカレーテ

出演：佐々木蔵之介

ルーマニアの鬼才・演出家プルカレーテと佐々木蔵之介の3回目のタッグ、東京芸術劇場とルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場との共同制作作品が水戸芸術館の舞台に登場。

聖書に登場する預言者でクジラに吞まれたが生還したという聖書のヨナのエピソードになぞらえ、演劇の原点に出会う、全く新しい舞台が誕生します。

1月9日（金）、10日（土）

二兎社『狩場の悲劇』

～永井愛 4年振りの書き下ろし新作が登場～



作・演出：永井 愛

出演：溝端淳平、門脇 麦、玉置玲央 他

アントン・チェーホフの長編ミステリー小説「狩場の悲劇」をベースに新たな劇世界を創造します。帝政ロシアの人間社会をレポートしたチェーホフと、人間ドラマを通して日本社会や時代の様相を描いてきた永井愛の、時間と空間を飛び越えた奇跡のコラボレーションを実力派キャストでお届けします。

4. 水戸映画祭

水戸ではあまり鑑賞する機会の少ない話題作を上映する、映画ファン必見のイベント。1986年10月に第1回が開催されて以来、水戸の映画文化の振興・発信、芸術文化全体の振興、地域社会の活性化、市民の心の豊かさの提供を目的に継続してきました。今年第40回を記念し2週間にわたって開催。水戸市出身深作欣二監督の作品も上映します。

10月18日（土）、19日（日）、25（土）、26（日）
第40回水戸映画祭 深作欣二特集

～第40回記念は話題作に加えて深作欣二作品やFILM上映～



2024年10月「第39回水戸映画祭」より

水戸映画祭の立ち上げにも大きく関わっていた、水戸出身の深作欣二監督作品の特集上映をはじめ、時代を反映した日本映画や外国語映画の話題作の上映やトーク、水戸芸術館常設の35mm FILM 映写機を活用したFILM上映などを行い、市民の誇りとする市民文化イベントを造りあげます。

共催：NPO 法人シネマパンチ、水戸映画祭実行委員会

5. 人材養成プロジェクト

地域の実演家たちを紹介し応援してきた 17 回目を迎える“未来サポートプロジェクト”に加えて、一昨年より新しいプロジェクトも立ち上げました。舞台芸術の若き才能を紹介していくカテゴリーに位置付けて取り組んでいきます。舞台作品の創造および発表の機会を提供し、人材の育成と輩出に貢献していきます。

12月14日（日）

リーディングプロジェクト

『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリー』

～谷川俊太郎の世界を市民と一緒に作り上げるリーディング公演～



©深堀瑞穂

作：谷川俊太郎

演出：橋本昭博

音楽：谷川賢作

今後の公演事業への人材輩出を目指して立ち上げた人材養成事業の3回目。幅広い世代から支持される詩人・谷川俊太郎の『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリー』をリーディング公演として上演します。

演出にミュージカル「水戸黄門」シリーズで演出を担当した茨城出身の演出家・橋本昭博、音楽に谷川賢作を迎え、出演者は公募で県内の幅広い世代から募集します。

1月中旬

未来サポートプロジェクト vol.17

劇団普通 新作公演

～那珂市出身の劇作家・演出家が茨城に登場～



『病室』2024年12月 三鷹市芸術文化センター 星のホール ©福島健太

作・演出：石黒麻衣

地元茨城に縁のあるアーティストに発表の機会を与え紹介してきた本プロジェクト。

全編茨城弁による作品も上演し、注目を集めている那珂市出身の劇作家・演出家・俳優の石黒麻衣が主宰する劇団普通をご紹介します。

6. 教育普及事業

～楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」～

ACM 劇場は演劇を中心とした舞台芸術を鑑賞する場所としてだけではなく、地域のさまざまな年代の市民の“学びの場”としての役割も長年務めてきました。参加する方の可能性を伸ばしていきながら、楽しんで学んでいくという人気の学習・体験レッスンです。一日完結から数日間の短期スタイル、さらには年間を通して学んでいき発表公演を行う長期スタイルまで、さまざまな教育プログラムをご用意しています。

朗読スタジオ

5 月～6 月 朗読の基礎コース

7 月～2 月 発表公演コース（2 月 23 日（月・祝）発表公演）

講師：壤 晴彦（俳優・演出家・演劇倶楽部『座』主宰）、相澤まどか 他

～美しい日本語をみつめなおし、声に出して、共に学ぶ～



2025 年 2 月公演「声のギャラリー」より ©刑部アツシ

俳優、声優、演出家として国内外で活躍する壤晴彦を講師に、朗読を通して日本語の美しさを再発見することを目的としたスクールは、今年で 13 年目を迎えました。発声の基礎から学び、2 月に発表公演を行います。今年度のテーマは“シェイクスピア・しえいくすぴあ”です。

水戸子どもミュージカルスクール

5 月～3 月（3 月 発表公演）

講師：高城信江、大内真智（劇団 ACM）、片山千穂

～学年、学校を越えた仲間たちとともに歌って踊って演じてミュージカルを学ぼう～



2025 年 3 月公演「雪のプリンセス」より ©刑部アツシ

小学 4 年生から中学 3 年生がミュージカルを学ぶ人気のスクール。今年度で 13 回目となります。5 月開校、3 月に発表公演と通年のレッスンにてミュージカルに取り組みます。仲間と一緒に作品をつくりながら子どもたちが、自分自身を発見していきます。校長は高橋市長です。

11月19日（水）～28日（金）
小学生のための演劇鑑賞会
『大どろぼうホツェンプロッツ』

～水戸市立小学校の4年生全員がACM劇場で観劇～



2022年「スーホの白い馬」公演より ©刑部アツシ

共催：水戸市教育委員会

水戸市立小学校の4年生を ACM 劇場に招待して生の演劇を体験してもらう企画。単なる芸術鑑賞ではなく、劇場マナーなども学び社会性を身に付ける場を目指して実施。市立以外の小学校にも体験してもらい、確実に演劇鑑賞のすそ野を広げています。

●地域交流プログラム

5月29日（木）～6月1日（日）、他 体験型ワークショップ「伝わる声の作り方」

講師：塩谷 亮（劇団 ACM）

～発声の基本から丁寧に指導 日常生活にも役立つ声の講座～



楽しみながら声を磨くワークショップ、毎回満員御礼の人気企画です。専属劇団ACMの劇団員による、俳優のセリフ術や訓練を活用して、日常生活にも役立つ豊かな言葉の表現を体験できる講座です。

ワークショップ「プレイルーム」（日程調整中）

進行役：大内真智（劇団 ACM）

～小学校低学年を対象にした創造力を育てる遊び場～



子どもワークショップ「プレイルーム」の4年目。前は平日の放課後の時間をメインに実施しました。今年も子どもたちの“あそびゴコロ”を芽吹かせます。

演出家・クリエイター等による交流プログラム（年数回）

～若手クリエイターと地域の人たちとの出会いの場～

公演事業や人材養成事業にて水戸に滞在する若手クリエイターたちと表現することに興味を持つ市民との出会いの場をつくりだします。まさに地域の交流ワークショップとして楽しんでいただきます。



現代美術センターは、時代の状況をふまえながら、多様な価値観と個性、視点を大切に
し、想像力あふれるアーティストらの実践を通して、幅広い層の人々が〈みる〉、〈つく
る〉そして〈対話する〉ことを楽しめる機会を、地域の人々との連携によってつくって
いきます。

1. 展覧会事業

- (1) いま注目のアーティストによる個展
- (2) 若手作家を新作中心に紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

2. 地域連携事業

地域の人々とともに、〈つながり〉をつくり〈地域〉を見つめ直す

3. 教育普及事業

さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しみを伝える

4. 椿 昇+室井 尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》修復・公開事業

5. 所管作品修復事業

1. 展覧会事業

(1) いま注目のアーティストによる個展

美術部門の事業の核となるのが、現代美術の多様な表現を引き立てる磯崎新設計の展示空間で展開する企画展です。当代を代表するアーティストの個展や回顧展から、近年の目覚ましい活動が注目されるアーティストによる初の大型個展まで、選りすぐりのアーティストによる作品を紹介します。

4月1日（火）～5月6日（火・振）
近藤亜樹：我が身をさいて、みた世界は

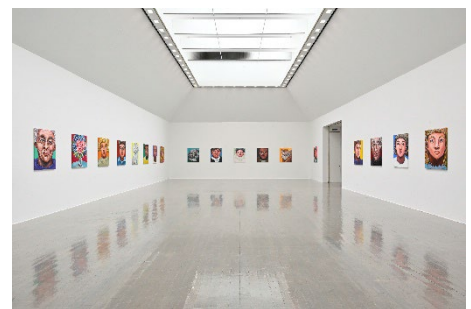
～「生きること」と「描くこと」が切り開く絵画表現の可能性に迫る～

躍動感溢れる筆遣いと力強い色彩の絵画で知られる近藤亜樹（1987年—）の個展。生への肯定や他者と共に在ること、人間的な尺度を越えた自然の世界、植物とのささやかな交感、芸術の根源に対する問いなどをテーマに、絵画表現の可能性を切り開いてきた画家・近藤亜樹の作品全88点を展覧しています。観る者に作品との対話を促すかのような展示構成は建築家・青木淳が担当。

幅9.15メートルを超える大作《ザ・オーケストラ》、物言わぬ植物に潜む生命力に目を向けた連作「サボテン」、喪失やパンデミック、戦禍の報せに触れながら他者の存在に想いを馳せる連作「わたしはあなたに会いたかった」など、近藤の2022年以降の作品24点と今展に向けて制作された64点の新作を通して、「生きること」と「描くこと」が切り開く世界に迫ります。



（「近藤亜樹：我が身をさいて、みた世界は」展示風景、
2025年／撮影：武藤滋生）



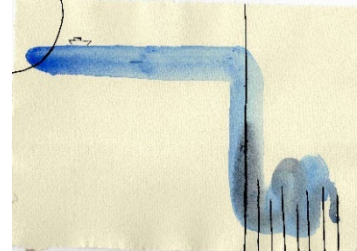
協力：シュウゴアーツ
展示構成：青木 淳
企画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

7月19日（土）～ 10月5日（日） 日比野克彦 展

～日比野克彦の多岐にわたる活動を「手つき」や「振舞い」をキーワードに見つめ直す～

「HIBINO EXPO 2005 日比野克彦の一人万博」展（水戸芸術館）から 20 年。毎年、地域連携プロジェクトで協働を続けてきた日比野克彦による活動を、今年は展覧会を通して掘り下げます。

本展では、日比野の生い立ちから現在までを俯瞰し、「手つき」や「振舞い」に着目してエピソードを織り交ぜながら紹介します。ここでいう「手つき」「振舞い」は、手書きの文字から、線と形の探求、つながりを求める手つき、プロジェクトの監修や館長、学長としてのディレクションまで、幅広い意味をもちます。日比野克彦というアーティストが形成された過程を起点に、80 年代の「ダンボールの日比野」の黎明期、90 年代の形のないものを表現する探求、2000 年代に顕著となる他者や地域との協働、さらに 2010 年代以降の美術館、大学、社会をフィールドにした変革的な取り組みまでを網羅します。これら全てを日比野克彦というアーティストによる〈表現〉と捉える観点から日比野による多岐にわたる活動を見つめ直すことで、拡張してやまない日比野による活動の特性を浮かび上がらせるを試みます。



上段・左から）《種は船・金沢丸》（2007）水戸芸術館広場、2011 年、撮影：加藤健／《ここから向こう。》（2005）など 水戸芸術館現代美術ギャラリー、2005 年、撮影：竹内裕二
下段・左から）《オートバイ》（1984）／「明後日新聞社」（2003-） 撮影：竹内裕二／「わたしはちきゅうのこだま」（2020）より

企画：竹久 侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

11月1日（土）～ 2026年1月25日（日） 磯崎新 展

～当館設計者で国際的な建築家 磯崎新の国内初大回顧展～

2022年末に逝去した当館設計者、磯崎新の国内初となる大規模な回顧展を開催します。磯崎は最も創造的で先駆的な20世紀を代表する建築家として知られ、2019年に建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を受賞、建築プロジェクトだけでなく、著作、理論、芸術家や知識人とのコラボレーションやキュレトリアル・ワークを通じて、60年以上にわたり思想、美術、文化論や批評分野で活動し、卓越した地位を確立してきました。本展は、画一的な近代建築を批判し、建築の根源的価値を再考するポストモダン建築の理念と実践を結実させた磯崎の代表作である当館を会場に、磯崎の作品模型、スケッチ、インスタレーション、絵画、映像などの様々なメディアを通じ、彼の思考の軌跡を辿りながら、磯崎の建築の枠を超えた文化的・思想的活動を総体的に紹介します。



左から）磯崎新氏ポートレート（Courtesy of Arata Isozaki & Associates）、水戸芸術館（撮影：田澤純）、《水戸芸術館》1988年 シルクスクリーンプリント

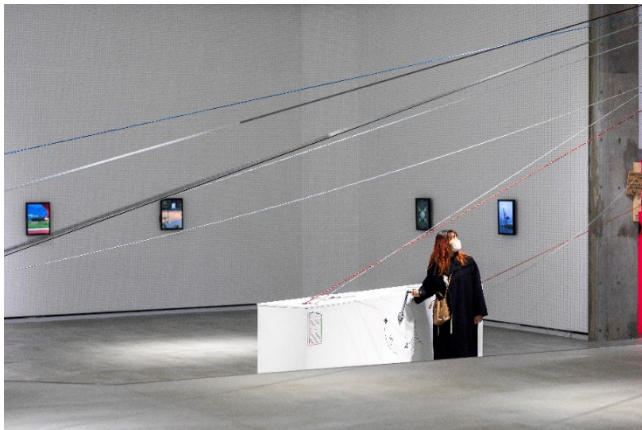
企画：井関 悠（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

2026年2月28日（土）～3月31日（火）※会期：5月6日（水・振）
飯川雄大 展

～鑑賞者の思考を揺さぶり新たな視点を提案する飯川雄大の個展～

飯川雄大は時間の相対性や知覚のゆらぎに着目し、何気ない風景や身近な物事を注意深く観察することで、人々の認識の不確かさや、社会で見過ごされがちな存在に目を向けさせる作品を制作してきました。記録という行為とそこからこぼれおちるものの考察から生まれた〈デコレータークラブ〉シリーズでは、巨大なピンクの猫を街中に突如出現させたり、鑑賞者のかかわりによって移動・変化するオブジェを屋内外に設置したりと、立体、写真、映像等を自由に組み合わせ、空間の特性を活かしたダイナミックな作品を展開しています。

本展では、飯川のこれまでの実践を包括的に紹介するとともに、情報の曖昧さや感覚の不完全さを新たな可能性と捉え、鑑賞者を巻き込む新作インスタレーションとして様々な仕掛けを出現させます。鑑賞者と作品との出会いがギャラリー外へと波及し、通りすがりの誰かが、普段と異なる光景を発見するかもしれません。思いもよらぬ出来事に出会った時の衝撃、生々しいリアリティを持った想いを、私たちはそのことを知らない他者にどのように伝えることができるのか、その（不）可能性について、ともに考える機会となるでしょう。



《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》
2022年 彫刻の森美術館での展示風景



《デコレータークラブーピンクの猫の小林さん》
2022年 彫刻の森美術館での展示風景

企画：畑井 恵（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

（２）若手作家を新作中心に紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

「クリテリオム」シリーズでは、若手作家と当館学芸員との協働で、新作中心の展覧会を作り上げます。開館２年目の１９９２年から続く本シリーズは、新進作家を個展形式で紹介する先駆的な取り組みとして当初から注目され、のちに日本を代表することになるアーティストをこれまで多く輩出してきました。若手作家のキャリア早期において重要な役割を果たしてきた本シリーズの１０２回目を実施します。

２月２８日（土）～３月３１日（火）※会期：５月６日（水・振）まで
クリテリオム １０２

出品作家選定中

2. 地域連携事業

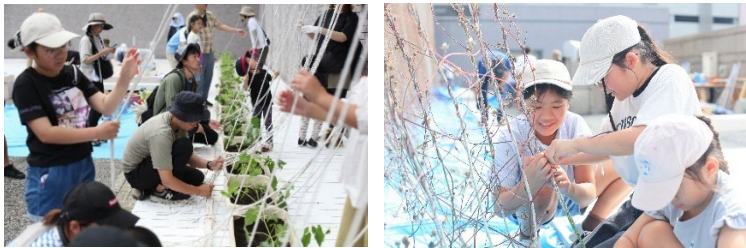
多様なかたちをもつ現代美術は、ときに展示空間を飛び出し参加型のプロジェクトとして、人と人が出会い、つながる場を開いてきました。現代美術センターでは地域の人々と連携し、地域についてともに見つめ直すアートプロジェクトを実施しています。

5月31日（土）～ 11月

明後日朝顔プロジェクト 2025 水戸

会場：水戸芸術館 2 階回廊を拠点に、水戸市民会館と京成百貨店でも実施

～朝顔の育成を通して、人と人、人と地域、地域と地域がつながる～



撮影：仲田絵美

共催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、水戸市民会館、
（株）水戸京成百貨店

2005 年に当館で開催した「日比野克彦の一人万博」展を機に、新潟県十日町市荻平から水戸に渡った「明後日朝顔プロジェクト」は人と人、人と地域をつなぎます。

市民有志の実行委員会、水戸市民会館、京成百貨店との共催で、MitoriO を拠点に地域のつながりを広げます。

10月4日（土） ※雨天の場合、5日（日）に実施

HIBINO CUP

会場：広場

～工作とスポーツが一緒に楽しめる！ 日比野克彦発案のアートイベント～



撮影：仲田絵美

共催：HIBINO CUP 実行委員会

日比野克彦の示すテーマにそって、チーム毎にゴールとボール、ユニフォームを制作し、それらを使って独自ルールのミニサッカーで競い合います。サッカーの勝敗だけでなく制作の創意工夫も表彰の対象に。親子や友人同士でお楽しみいただけます。

通年 ホーム・ムービング！

市民の自宅に眠る 8 ミリフィルムの収集を継続するとともに、フィルムを鑑賞しながら対話する「みとアカカブの会」を昨年に引き続き実施し、収集してきた資料の整理・保存を推進します。また、老人福祉施設をはじめとする出張事業や水戸映画祭と連動した 8mm 屋台の開催、データの公開と DVD 化、ボランティアの募集、年度末の座談会等の実施などでも積極的にフィルムを活用します。



8 ミリフィルム鑑賞会の様子

（左）映像提供者と共に 当館現代美術ギャラリー ワークショップ室 2025 年 3 月

（右）「ブリッジカフェ」での鑑賞 当館現代美術ギャラリー ワークショップ室 2025 年 3 月

共催：水戸商工会議所

3. 教育普及事業

～さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しさを伝える～

現代美術の楽しさを伝えるための活動をアーティストや市民とともに行います。現代美術が示す多様な価値観は、これまでの考え方が揺らぐ時代に思索の時と場を提供します。また、創造と想像の喜びは日常をより豊かなものにします。市民のみなさんの声から工夫をしながら、さまざまな年齢層、コミュニティにプログラムを提供します。

●高校生ウィーク（4月、2026年3月）

～高校生を中心とした多世代が美術館活動に触れ、多様な価値観に出会う企画～



高校生ウィーク 2023 会場の様子

春休み期間にあわせて開設してきた、来場者がどなたでも利用できる恒例の交流スペース。

高校生と大人を対象としたアーティスト・ワークショップ、市民主導の部活動も実施します。「近藤亜樹：我が身をさいて、みた世界は」展と「飯川雄大」展会期中の開催です。

●造形実験室（月2回）

～毎月、異なる素材や技法で造作を楽しむ集いの場～



2024年11月の様子 撮影：山野井咲里

身の回りにある様々な素材をテーマに造形を楽しむ企画。

子ども、大人、高齢者、障害のある人など、様々な人が出会う交流の場として、市民ボランティアとともに定期的に開催します。

●アーティストワークショップ

～アーティストのアイデアに触れながら、もの作りを楽しみ、日常を楽しむ創造力を磨こう～



BOB ho-ho ワークショップ「プリコラージュ・プリンティング」、「夏のこらぼ・らぼ」2024 年の様子 撮影：仲田絵美

展覧会にあわせて企画するアーティストによるワークショップをはじめ、ものを作り、考えを共有するワークショップを行います。多様な視点を示すアーティストの価値観に触れながらもものを作ることは、心の開放にもつながり、また日常を楽しむアイデアをもたらします。

① アトリエ訪問と制作 つくりて くらして（6月28日（土））



ガラス工房「どこかの」での制作（2024 年）の様子

地域に住むアーティストのアトリエを訪問し、その暮らしと制作の様子を見学し、一緒にものづくりをするプログラム。アーティストの考えに触れ、制作も楽しみながら参加者が自らの暮らしを豊かに過ごすヒントを得られる機会とします。今年度は「漆と楮畑から」と題し、講師に神長智恵美（楽間堂 スタチオカミナガ主宰／大子漆保存会）を迎え、漆と和紙に原料から向き合うつくりてとくらしに注目します。

② 夏のこらぼ・らぼフェス2025（8月9日（土）、10日（日））



市民ボランティアによるワークショップ「植物のまわりにあるもの」、「夏のこらぼ・らぼ」2024 年の様子

撮影：仲田絵美

●視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session！」(9月)

～見える人と見えない人がともに対話を通して鑑賞するツアー～



「今村源 遅れるものの行方」(2023 年)でのツアーの様子
撮影：山野井咲里

水戸市に住む全盲の美術鑑賞者・白鳥建二がナビゲーターを務める、見える人と見えない人とが対話をしながら作品を鑑賞するツアー。障害の有無に関わらず、居合わせた人同士が奏でるコミュニケーションを楽しみます。本年度は「日比野克彦展」で実施します。

※この取組は 2021 年度から中学 3 年生の道徳の教科書(光村図書版)に掲載されています。また、2022 年度本屋大賞ノンフィクション本大賞を受賞した『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』(川内有緒著)や映画『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』(監督：三好大輔、川内有緒)をはじめ、白鳥氏の活動は多くのメディアで紹介され、見えない人との鑑賞活動は広く注目を集めています。

●小中学生のための学校訪問アートプログラム(9月～2月)

会場：各小中学校

～当館から学校に出向き、アートプログラムをお届けします！～



津田翔平ワークショップ 2024 年の様子 撮影：仲田絵美

当館で開催する展覧会にちなんだアーティストによるワークショップから、市民ボランティアによる対話型鑑賞、学芸員によるレクチャーまで、学齢別に多彩なアートプログラムを用意し、美術を通じたアクティブ・ラーニングの機会を子どもたちに届けます。本年度は特別支援学校・学級、校内フリースクールでの参加に向けて、積極的なアプローチを試みます。

●こどもの鑑賞プログラム

～学校・園での来館と家族での鑑賞をつなげます～

① またきて美術館（11月～1月）

演劇・音楽部門が小学4年生と中学1年生を対象にそれぞれ開催している公演の団体鑑賞と連動し、参加する児童生徒が現代美術ギャラリーでの展覧会も鑑賞する仕組みです。当日の鑑賞は申込制とし、学校の希望に応じて、時間に合わせた鑑賞のボリュームや鑑賞方法を組み立てます。参加した児童生徒には、後日改めて家族と来館してゆっくり鑑賞できる鑑賞券を提供することで、音楽・演劇公演の団体鑑賞の来館をきっかけに、展覧会を鑑賞する人の輪を広げていく企画です。

② プレスクールプログラム（12月）



プレススクールプログラム 2015年の様子

2007年から2018年まで実施していた、幼稚園・保育園・こども園の年長クラスを対象とした鑑賞ツアー＋工作のプログラムを再開します。美術館に親しむ第一歩として、館内でのマナーを伝え、少人数のグループに分かれて鑑賞します。

今年度は、12月上旬、数日にわたり希望する園を15園程度受け入れます。



プレススクールプログラム 2018年の様子

●ブリッジアートとケアをつなぐ ～誰もが現代美術に親しむためのプログラム～



ブリッジカフェ 高校生の考案した介護用品を制作する参加者
2025 年の様子

子育て世帯や高齢者を取り巻く諸問題などにより来館が難しい現状にある層の来館を促すために、「アートとケア」をテーマとしたプログラムを行います。ケアに関わる人々にアートを通じて楽しむ時間を提供するとともに、個人が直面する尊厳や社会問題について考える機会や、対話の場を提供します。

① 赤ちゃんと一緒に美術館散歩（年 6 回、毎展覧会 2 回）



「今村源 遅れるものの行方」（2023 年）での実施の様子 撮影：山野井咲里

乳幼児とその保護者が安心して参加できる展覧会鑑賞ツアー。参加者のペースに添って、展覧会をご案内、乳幼児ケアのサポートをします。
担当するのは館内係員 ATM フェイスと市民ボランティアです。

② ブリッジカフェ（9 月、3 月）



2024 年 9 月実施のブリッジカフェの様子

認知症当事者やその家族、福祉施設の介助者を対象とした鑑賞プログラムを実施します。

③ 地域団体・学校との連携（通年）

展覧会鑑賞のための来館や校内作業を通じた地域社会とのつながりの創出等を行います。

●共創拠点（みんなのアートセンター）

展覧会やワークショップなどの事業を軸に、市民が自身の関心や経験を活かして主体的に活動し、共創するためのプラットフォームを設けます。

① 「CAC ギャラリートークーカード」による対話型鑑賞プログラム（通年）



ウィークエンドギャラリートークの様子

市民ボランティア「CAC ギャラリートークーカード」による対話型鑑賞のギャラリートークを実施します。災害や戦禍をはじめ、一つの正解を導けない課題を多く抱える現代、作品の前で私たち一人ひとりが感じ、考え、他者と対話を交わす時間と空間はますます重要になっているでしょう。

② 造形ボランティア（通年）



造形実験室の様子 撮影：山野井咲里

「造形実験室」を中心に館の内外で、作ることの楽しさを味わいながら、参加者の造形活動を支えるボランティア活動です。素材や人との出会いを楽しむ場所や関係づくりを促進します。

③ 乳幼児ケア（通年）



赤ちゃんと一緒に美術館散歩の様子

館内係員 ATM フェイスの有志チームと一緒に、来館する乳幼児や保護者のケアを担う市民ボランティアです。それぞれのバックグラウンドを生かした多様なかわり方で、豊かな美術館時間を創出します。

④ カフェスタッフ（通年）



高校生ウィーク カフェでの活動の様子

高校生、大学生から一般までの多世代にわたるボランティアが「高校生ウィーク」のカフェの中で、造作と交流が営まれる場の運営をします。

⑤ 部活動（通年）



アーカイ部 2025 年 3 月の活動「わたしたちの生活史を聴く・編む」の様子

自主的な創作や交流の楽しみをほかの来館者へと広げる活動を行います。現在は「ほんでたいわ部」や「アーカイ部」「織り部」などが年間を通じて活動しています。

⑥ ふえいすらぼ（通年）



展覧会事業をきっかけに始まった当館案内係 ATM フェイス有志によるグループ「ふえいすらぼ」による手芸品の制作と販売を行います。

4. 椿昇＋室井尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》

修復・公開事業

当館所管作品である全長 50m のバッタ《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》を、修復しながら記憶とともに継承するプロジェクトを実施しています。

通年

椿昇＋室井尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》

修復・公開プロジェクト

会場：広場 他



2024 年 3 月修復・公開第二弾にて触角が立った様子 撮影：顧 剣亨

全長 50m の巨大なバッタ《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》は、当館の所管作品です。屋外展示のため避けることのできない経年劣化により修復が必要となった本作を、本作にまつわる記憶とともに世代を超えて受け継ぐため、修復・公開プロジェクトを実施してきました。今年は、バッタを 3D データ化してデジタル・アーカイブとして活用していきます。

5. 所管作品修復事業

水戸芸術館が所管する作品の維持修復のための事業。

当館には開館当初に購入した作品を含め、これまで当館の展覧会事業に参加したアーティストによる作品などおよそ 100 点が収蔵されています。次世代へ継承していくため、維持・修復が必要な状況にある作品を調査し、必要な措置を施します。

通年

地域共催事業

1. 第56回水戸市芸術祭

水戸市民による芸術の祭典「水戸市芸術祭」。今年度は、28プログラムのうち10プログラムを水戸芸術館で開催し、約3ヶ月にわたり多数の市民が参加して日頃の活動の成果を披露します。

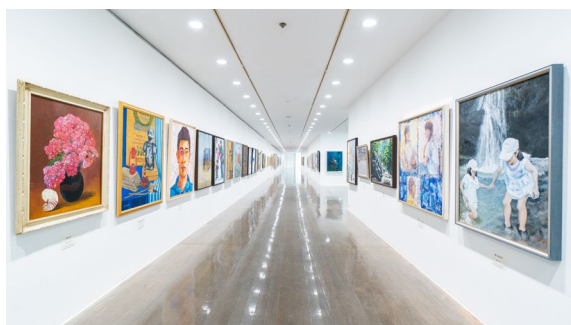
主催：水戸市文化振興協議会、水戸市、水戸市教育委員会、（公財）水戸市芸術振興財団、茨城新聞社

5月27日（火）～6月6日（金）、6月11日（水）～22日（日）

美術展覧会

第1期：日本画・洋画・彫刻・工芸美術（5月27日～6月6日）

第2期：書・写真・デザイン・インスタレーション（6月11日～22日）



日本画や洋画、書、写真など幅広いジャンルにわたり、多数の応募作品の中から選ばれた力作を2期に分けて展示します。

会場：現代美術ギャラリー

出品者：水戸市民による公募

6月22日（日）

三曲各流演奏会

琴、尺八、三味線の演奏会です。社中合同の演奏会や現代曲を邦楽にアレンジしたものなど多彩なプログラムを披露します。

会場：ACM 劇場

出演：生田流、山田流、琴古流、新都山流

6月27日（金）～29日（日）

いけばな展



水戸市華道連合会に所属する各流派が、磨かれた手わざで、繊細な作品からダイナミックな作品までを披露します。

会場：現代美術ギャラリー

出品流派：龍生派、古流松應会、広山流、池坊、小原流、草月流

6月29日（日）

謡と仕舞の会

劇場内の能舞台上、各流派による素謡、連吟、仕舞のほか鼓や笛の公演を行います。

会場：ACM 劇場

出演：観世流、金春流、宝生流

7月12日（土）、13日（日）

市民音楽会

市内で音楽活動している団体がピアノやギター、オカリナなど多彩な楽器演奏を行います。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸市内の音楽団体

7月13日（日）

バレエフェスティバル

市内のバレエ教室に通う幼稚園児から高校生までの子どもたちが、日頃のレッスンの成果を披露します。

会場：ACM 劇場

出演：市内バレエ教室

8月3日（日）

合唱フェスティバル CHORUS de MITO

市内の合唱団が参加し、豊かなハーモニーで彩ります。

会場：コンサートホール ATM

出演：市内の合唱団体

8月17日（日）

ジュニアオーケストラ演奏会

小学生から高校生までの子どもたちで編成された、40年以上の歴史のあるオーケストラが、大人顔負けの熱演を披露します。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸ジュニアオーケストラ

8月23日（土）・24日（日）、8月30日（土）・31日（日）

演劇フェスティバル

市内を中心に活動する4劇団が2週にわたって持ち味を活かした演目を披露します。

会場：ACM 劇場

出演：茨城大学演劇研究会、演劇事務所'99、キミトジャグジー、プロフェショナルファウル

8月24日（日）

交響楽演奏会

県内の音楽愛好家を中心になって創立し、50年以上の歴史をもつオーケストラ、「茨城交響楽団」による演奏をお楽しみいただきます。

会場：コンサートホール ATM

出演：茨城交響楽団

2. その他の地域共催事業

エントランスホールや劇場、コンサートホールにて、地域の人々と協力して行う事業や、地域子どもたちが参加する様々な事業を行います。

6月

「水戸の梅まつり 写真コンテスト」入賞作品展

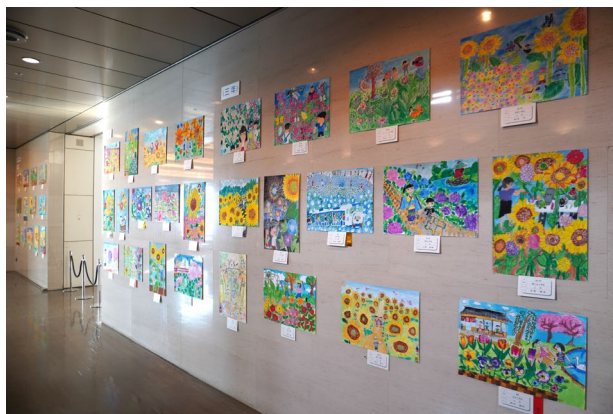
水戸の梅まつり期間中に偕楽園・弘道館公園内で撮影された写真コンテストの入賞作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸の梅まつり実行委員会、茨城県カメラ商組合

9月～10月

花の絵コンクール作品展



水戸市住みよいまちづくり推進協議会が中心となって開催している「花いっぱい運動」の一環として公募した絵画作品の展覧会です。保育所（園）、幼稚園児及び小・中学校の児童、生徒の優秀作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸市住みよいまちづくり推進協議会

11月6日（木）

水戸市立第二中学校 清流祭合唱コンクール

水戸市立第二中学校による合唱コンクールです。

会場：コンサートホール ATM

主催：水戸市立第二中学校

1月～3月

各種大会受賞記念小中学校演奏会

吹奏楽コンクール等で優秀な成績を収めた吹奏楽部などが受賞を記念して開催するコンサートです。

会場：コンサートホール ATM

主催：市内小中学校

1月～2月

第24回大手橋プラムコンサート

地元の市立第二中学校及び三の丸・五軒・柳河各小学校の吹奏楽部、合唱部等による合同の演奏会を開催します。

会場：コンサートホール ATM

主催：大手橋プラムコンサート実施委員会

2月～3月

水戸・高松親善都市 児童生徒美術展覧会

水戸市と高松市の交流を図るため、両市の児童生徒が描いた作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸市、高松市、水戸市教育委員会

3. 広場での催事

街の中の憩いの広場として、賑わいをもたらす市民参加の音楽会や各種イベントなどを地域の団体や人々と協力して行います。

通年

水戸芸術館ライトアッププロジェクト



©田澤 純

2016年10月よりスタートした、水戸芸術館のライトアップ企画。塔とカスケード（噴水）に、季節や時間などによって変化するさまざまなプログラムを施し、鮮やかな光のアートを生み出します。

4月26日（土）、27日（日） あおぞらクラフトいち Spring in 水戸



県内外で活動しているクラフト作家による手作り作品の展示・販売のほかアコースティックライブ、ワークショップなどを行います。

主催：あおぞらクラフトいち実行委員会

4月29日（火・祝） 美 Fes2025

美容に関する情報や体験のほか、健康食品、キッチンカー、ステージイベントなどを開催します。

主催：美 Fes 実行委員会

5月3日（土・祝）

水戸まちなかフェスティバル 2025 ～帰ってきたストリート文化祭～

アート、ワークショップ、グルメ等をテーマとした出店や、学生や市民によるステージイベントなどを開催します。

主催：水戸まちなかフェスティバル実行委員会

5月、6月、9月、10月の第4金曜日

茨城県警察音楽隊「金曜コンサート」

茨城県警察音楽隊による吹奏楽コンサート。クラシック、ポップス、フォークなど幅広いレパートリーで子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるコンサートです。

主催：茨城県警察音楽隊

5月、6月、10月、11月の第4土曜日

アートタワーマーケット

リサイクル品や、アマチュア作家によるクラフト品を中心としたフリーマーケットです。

主催：アートタワーマーケット実行委員会

5月25日（土）

アカペラフェスティバル in 水戸 2025

県内外からアカペラグループが集まり、自慢の歌声を披露します。

主催：アカペラフェスティバル in 水戸 実行委員会

7月12日（土）

五軒サマーナイトコンサート&ふれあいまつり

地元の五軒地区の夏の音楽祭。幼稚園児から小・中・高校生、市民のコーラスグループ、水戸太鼓保存会など各種音楽団体が広場ステージで演奏します。

主催：ふれあいぶたうんコミュニティ

9月

水戸野外映画上映会

秋の夜空の下、特設大スクリーンでご覧いただく野外上映会。開放的な空間とゆったりと流れる時間…大人から子どもまで楽しめるアットホームな映画とともにのんびりとお過ごしください。

主催：水戸クリエイティヴウィーク実行委員会

10月12日（日）、13日（月・祝）

あおぞらクラフトいち Autumn in 水戸

県内外で活動しているクラフト作家による手作り作品の展示・販売のほかアコースティックライブ、ワークショップなどを行います。

主催：あおぞらクラフトいち実行委員会

11月15日（土）

水戸市商店会感謝フェスティバル

にぎやかな街づくりを目的にしたイベントで、様々なステージイベントや模擬店をお楽しみいただきます。

主催：水戸市商店会連合会

12月7日（日）

水戸の街に響け！ 300人の《第九》 2025

※詳細は、音楽部門事業概要（P.12）をご覧ください。

中心市街地活性化事業

当館と水戸市民会館そして京成百貨店の連携によって、3つの施設から成る「MitoriO（ミトリオ）」地区の振興と中心市街地の活性化に寄与してまいります。

5月31日（土）6月～11月、10月4日（土）※予備日5日（日）
明後日朝顔プロジェクト2025 水戸
HIBINO CUP

※詳細は、美術部門事業概要（P.44）をご覧ください。

6月11日（水）
ウィーン少年合唱団

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

※詳細は、音楽部門事業概要（P.10）をご覧ください

7月19日（土）～10月5日（日）
日比野克彦展

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

※詳細は、美術部門事業概要（P.40）をご覧ください

＜通年＞

ホーム・ムービング！

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー 他

※詳細は、美術部門事業概要（P.45）をご覧ください

水戸芸術館・水戸市民会館 見学ツアー

会場：水戸芸術館、水戸市民会館



共催：水戸市民会館

当館および水戸市民会館のそれぞれの施設をご案内するツアーを開催しています。

水戸芸術館・水戸市民会館 名建築を撮影しよう！

会場：水戸芸術館、水戸市民会館

当館の写真をこれまで撮り続けてきた写真家・田澤 純を講師に、当館および水戸市民会館の魅力的な建築を撮影するワークショップを行います。

共催：水戸市民会館

吉田秀和賞

「吉田秀和賞」について

音楽を中心に芸術評論に多大な功績のあった吉田秀和水戸芸術館初代館長の名を冠し、1990年に創設された吉田秀和賞は、芸術文化の振興を目的として、吉田秀和芸術振興基金において優れた芸術評論に対して賞の贈呈をしてまいりました。2013年度からは、当財団が運営し、本年度は、第35回目の審査を行います。

審査委員 片山杜秀 評論家・慶應義塾大学法学部教授

審査委員 堀江敏幸 作家・早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授

受賞作品

- 第1回（1991年 平成3年度） 秋山邦晴『エリック・サティ覚え書』青土社 1990年6月刊
- 第2回（1992年 平成4年度） 持田季未子『絵画の思考』岩波書店 1992年4月刊
- 第3回（1993年 平成5年度） 該当作品なし
- 第4回（1994年 平成6年度） 渡辺 保『昭和の名人 豊竹山城少掾』新潮社 1993年9月刊
- 第5回（1995年 平成7年度） 松浦寿輝『エッフェル塔試論』筑摩書房 1995年6月刊
- 第6回（1996年 平成8年度） 長木誠司『フェッルッチョ・ブゾーニ』みすず書房
1995年11月刊
- 第7回（1997年 平成9年度） 伊東信宏『バルトーク』中央公論社 1997年7月刊
- 第8回（1998年 平成10年度） 該当作品なし
- 第9回（1999年 平成11年度） 青柳いづみこ『翼のはえた指 評伝 安川加壽子』白水社
1999年6月刊
- 第10回（2000年 平成12年度） 小林頼子『フェルメール論 ―神話解体の試み』八坂書房
1998年8月刊
小林頼子『フェルメールの世界 17世紀オランダ風俗画家の軌跡』日本放送出版協会 1999年10月刊
- 第11回（2001年 平成13年度） 加藤幹郎『映画とは何か』みすず書房 2001年3月刊
- 第12回（2002年 平成14年度） 該当作品なし
- 第13回（2003年 平成15年度） 岡田温司『モランディとその時代』人文書院
2003年8月刊
- 第14回（2004年 平成16年度） 湯沢英彦『クリスチャン・ボルタンスキー 死者のモニュメント』水声社 2004年7月刊
- 第15回（2005年 平成17年度） 宮澤淳一『グレン・グールド論』春秋社 2004年12月刊
- 第16回（2006年 平成18年度） 有木宏二『ピサロ／砂の記憶 ―印象派の内なる闇』
人文書館 2005年11月刊
- 第17回（2007年 平成19年度） 該当作品なし

- 第18回（2008年 平成20年度） 片山杜秀『音盤考現学』アルテスパブリッシング
2008年2月刊
片山杜秀『音盤博物誌』アルテスパブリッシング
2008年5月刊
- 第19回（2009年 平成21年度） 岡田暁生『音楽の聴き方』中央公論新社 2009年6月刊
- 第20回（2010年 平成22年度） 白石美雪『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナキー』
武蔵野美術大学出版局 2009年10月刊
- 第21回（2011年 平成23年度） 椎名亮輔『デオダ・ド・セヴラック 南仏の風、郷愁の音画』
アルテスパブリッシング 2011年9月刊
- 第22回（2012年 平成24年度） 新関公子『ゴッホ 契約の兄弟 フィンセントとテオ・ファン・
ゴッホ』ブリュッケ 2011年11月刊
- 第23回（2013年 平成25年度） 末永照和『評伝 ジャン・デュビュッフェ アール・ブリュッ
トの探求者』青土社 2012年10月刊
- 第24回（2014年 平成26年度） 通崎睦美『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』
講談社 2013年9月刊
- 第25回（2015年 平成27年度） 榎木野衣『後美術論』美術出版社 2015年3月刊
- 第26回（2016年 平成28年度） 立花 隆『武満徹・音楽創造への旅』文藝春秋 2016年2月刊
- 第27回（2017年 平成29年度） 平芳幸浩『マルセル・デュシャンとアメリカ
―戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷―』
ナカニシヤ出版 2016年7月刊
- 第28回（2018年 平成30年度） 堀 真理子「改訂を重ねる『ゴドーを待ちながら』―演出家と
してのベケット―」藤原書店 2017年9月刊
- 第29回（2019年 令和1年度） 沼野雄司『エドガー・ヴァレーズ―孤独な射手の肖像』
春秋社 2019年1月刊
- 第30回（2020年 令和2年度） 柿沼敏江『＜無調＞の誕生 ドミナントなき時代の音楽のゆく
え』音楽之友社 2020年1月刊
荒川 徹『ドナルド・ジャッド―風景とミニマリズム』
水声社 2019年7月刊
- 第31回（2021年 令和3年度） 前田良三『ナチス絵画の謎―逆襲するアカデミズムと
「大ドイツ美術展」』みすず書房 2021年3月刊
- 第32回（2022年 令和4年度） 新井高子『唐十郎のせりふ 二〇〇〇年代戯曲をひらく』
幻戯書房 2021年12月刊
- 第33回（2023年 令和5年度） 藤原貞朗『共和国の美術―フランス美術史編纂と保守／学芸員
の時代―』名古屋大学出版会 2023年2月刊
- 第34回（2024年 令和6年度） 鈴木晶『ニジンスキー 踊る神と呼ばれた男』
みすず書房 2023年7月刊



公益財団法人 水戸市芸術振興財団
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL : 029-227-8111 FAX : 029-227-8110
E-mail : kouhou@arttowermito.or.jp
<https://www.arttowermito.or.jp/>